

# 神戸総合治水フォーラムの概要

項目	内容
講演会名	神戸総合治水フォーラム ～想定を超える降雨にそなえて～
開催日時	平成27年9月12日（日）14時～16時
開催場所	ホテルクラウンパレス神戸 5Fザボールルーム
内容	I.総合治水の取組み（説明者：神戸土木事務所） II.基調講演（講演者：沖村 孝氏） III.手づくりハザードマップの作成 （説明者：NPO法人ひょうご地域防災サポート隊）
参加者数	約200名

**神戸総合治水フォーラム**  
～想定を超える降雨にそなえて～

参加費 無料  
定員200名

【日時】平成27年9月13日（日）14:00～16:00（開場）13:30  
【会場】ホテルクラウンパレス神戸（旧・ホテルニューオータニ）※裏面参照  
5F ザボールルーム 【マールカスクエア神戸】  
〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-5  
TEL. 078-367-1356

参加記念として  
エコバッグを進呈!

【内容】

I 総合治水の取組み  
説明者：神戸土木事務所  
神戸市域における、これまでの「ながす」対策の現状と、これからの「ためる」対策の取組み事例、「そなえる」ために有効な情報について説明します。

II 基調講演  
講演者：沖村 孝氏（神戸大学 名誉教授）  
神戸市域の土砂災害や浸水被害の特徴を踏まえ、適切な避難行動へ

III 手づくりハザードマップの作成  
説明者：NPO法人ひょうご地域防災サポート隊  
自分たちの地域で起こりうる災害を知り、どう行動すべきか、みんなで考える手づくりハザードマップの作成手法を紹介し、

【申込み方法】いずれかの方法でお申し込みください。  
① ファクシミリ（裏面申込書を利用ください。）  
② 神戸土木事務所のホームページ（<http://web.pref.hyogo.jp/kobeodoboku/>）から  
③ 電子申請（<https://e-hyogo-elig-front.jp/uketsuke/dform.do?area=1>）  
④ メール（[kobeodoboku@pref.hyogo.jp](mailto:kobeodoboku@pref.hyogo.jp)） 件名「フォーラム申し込み」、本文「氏名、住所、電話番号」を記入、締め切り/平成27年8月31日(月)必着 ※定員200名になり次第、締め切らせていただきます。お申込みの件数ください。

（総合治水とは）  
近年、局地的な大雨など想定を超える降雨に対して市街地を守るためには、従来の河川や下水道の整備だけでは困難となってきました。  
兵庫県では、これまでの河川下水道対策「ながす」に加え、流域での浸透貯留を行う「ためる」、減災の「そなえる」対策を組み合わせた総合治水をすすめています。  
総合治水は、ひとりひとりの取組みが重要です。「総合治水って何？」という方もぜひご参加ください。

別川・下水道の整備 + 雨水を一時的に地下浸透や貯留させる + 浸水した場合の被害を軽減する = 総合治水  
「河川下水道対策」ながす + 「流域対策」ためる + 「減災対策」そなえる

主催 / 兵庫県神戸市民センター

案内チラシ



会場の様子

講演名	講演者	内容
I.総合治水の取組み	神戸土木事務所	兵庫県では、全国に先駆けて県民・県・市町が協働して総合治水に取り組むための総合治水条例を策定しており、「ながす」、「ためる」、「そなえる」を基本とした取組の方針について紹介するとともに、これを踏まえ、神戸土木事務所管内における総合治水の実施状況や今後の計画について説明が行われた。

### 2 総合治水推進計画

■ 具体的な総合治水の取組



ながす	
1	河川下水道対策の推進
ためる	
2	校庭での貯留
3	各戸貯留
4	水田での貯留
5	ため池での貯留 など
そなえる	
6	浸水する範囲を知る
7	防災について学ぶ など

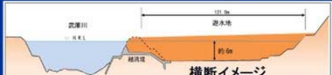
「ながす」は行政が中心。  
「ためる」「そなえる」は住民や学校、企業と行政と一緒に進める取組み

### 3 「ながす」対策

■ 武庫川遊水地の整備

北区の武庫川において、遊水地を整備します。






神戸土木事務所の説明

### 4 「ためる」対策

■ 校庭貯留

北区の県立神戸北高校において、校庭貯留整備を実施します。




平常時  
H24.7降雨時  
県立宝塚東高校の事例

### 5 「そなえる」対策（事前準備）

■ 防災情報サイト(総合)

兵庫県CGハザードマップ



<http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/>

総合治水では従来の「ながす」対策を中心としながら、県の施設を先行に「ためる」対策、自治体や住民と共同して「そなえる」対策も実施していく。

説明に用いたスライド

講演名	講演者	内容
Ⅱ.基調講演	神戸大学 名誉教授 沖村 孝氏	神戸市内で発生した過去の洪水や土砂災害とその特徴、近年の豪雨の傾向について説明するとともに、今後降雨予測が難しくなるなかでこれらの災害から命を守るためにどのような行動をとるべきかについて説明があった。



近年の強雨型降雨と従来の長雨型降雨の特徴

降雨タイプ	発生年	観測場所	継続時間 (時間)	本格的降雨の 降水量 (ミリ)	本格的降雨 の最大時間 雨量(ミリ/時)	本格的降雨 の平均時間 雨量(ミリ/ 時)
強雨 (70ミリ/時以上)	2010	奄美大島(住用)	5	498.5	128	99.7
	2012	阿蘇(乙姫)	4	383.5	106	95.8
	2013	山口(須佐)	4	386.5	142	96.6
	2013	伊豆大島(大島)	5	497	122	99.4
	2014	神戸(有馬川)	2	168	88	84
	2014	丹波(北岡本)	1	91	91	91
長雨 (30ミリ/時以上)	2014	広島(三入)	2	182	101	91
	1936	神戸(气象台)	4	132.9	47.5	33.2
	1967	神戸(气象台)	4	184.5	69	46.1
	2011	紀伊半島(上北山)	53	1,448	46	27.3

注)本格的降雨とは、基準雨量の最初の出現時刻から最後の出現時刻までの雨量を指す



沖村 孝氏の説明

近年の豪雨の特徴のまとめ

大きな降雨強度を持った豪雨が、2~4時間の短時間に局所的に降る。

降雨予報が難しくなる。

台風や地震に遭遇するのは日本に住む私たちの宿命

自分の身をどう守るか？

土地の被災の歴史を知る  
過去の災害の経験を生かす  
(訓練、伝承)

普段の自分たちの地域を知る  
(森、溪流、警戒区域、警戒情報)

水路・植生の維持管理を行う  
危険なときは助け合って自主避難を  
環境・防災教育を行う

神戸市内では洪水や土砂災害で大きな被害を被ってきたが、近年、洪水が短時間で局所的に降る傾向があり、予測が難しくなっていることから、自分で身を守ることがより重要となっている。

説明に用いたスライド

講演名	講演者	内容
Ⅲ.手づくりハザードマップの作成	NPO法人 ひょうご 地域防災 サポート隊	過去の災害における避難の実施状況や被災により亡くなった方の要因について紹介するとともに、被害の軽減のためには地域防災力の向上が必要であり、その一助となるものとして手作りハザードマップが有効であることの説明があった。

### 「地域の防災」の課題

- (1) 極めて異常な気象状況  
局所的なゲリラ豪雨・記録破りの集中豪雨  
⇒ 瞬時の対応が求められる
- (2) 住民の住まい状況が一人ひとり異なる  
住居場所(地形)が違う・家屋の構造が違う・  
家族構成が違う ⇒ 如何に避難すべきか?
- (3) 役所も被災・職員も被災する  
⇒  
**住民は自ら「自分の命は自分で守る」自覚を持つ**  
三陸地方に伝わる「てんでんこ」

### 手づくりハザードマップ作成の意義

- ◆ 地域のみなさまが、お住まいの地域の水害の危険性についてみんなで共有でき、災害が発生した時に、適切な対応ができるようになります。
- ◆ みんなでワイワイ楽しくつくることにより、地域コミュニティの活性化を図れます。
- ◆ 完成品を印刷して地域に配布し、防災訓練等に利用することにより成果を広く普及させることができます。



NPO法人ひょうご地域防災サポート隊の説明

### 手づくりハザードマップ作成手法

- 過去の災害、ハザードマップや手づくりハザードマップの必要性について学びます
- まち歩きを行い、防災施設や危険な箇所を確認します
- 地図に今までの経験や地域の特徴、まち歩きの情報を書き込みます
- 各班から作成した地図を提示しながら発表を行い、意見交換を行います



説明に用いたスライド

過去の被災状況からみられる現状の「地域の防災」の課題を整理するとともに、その解決法として手作りハザードマップを紹介し、その作成方法を説明している。